

地域医療とバイオエシックス教育（第12報）—医学用語の啓発を目的とした教材作成—

○宮本 悦子¹, 毎田 千恵子¹, 杉田 尚寛², 脇屋 義文¹, 大嶋 耐之³(¹北陸大薬,²公立能登総合病院薬,³金城学院大薬)

【目的】演者らは、1999年から一般人、医療関係者、医療域の学生を対象に緩和ケアに関連する医学用語について、その理解度を調査¹⁾し、その結果をもとに絵本に専門用語の解説を盛り込んだ教材（メディおばさんの木陰で^{註1)}）を作成し、用語の啓発活動を行ってきた。また、教材は年齢や障害の有無に関わりなく、使用できるよう点字・点図、音声による利用などユニバーサル化を目指して検討を続けている。活動開始から10年が経過し、医療環境も変化してきていることから、これまで作成してきた冊子について、内容、必要性などについて調査を行った。

【方法】第16回石川緩和医療研究会の参加者（医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、栄養士、看護学生）約100名に冊子「緩和ケア」（2002年）、「グリーンフケア」（2005年）、「セカンドオピニオン」（2007年）を配布し、会の終了時にアンケートによる評価を依頼した。アンケートは記述式とし、内容の難易度、必要性、サイズ（A4）について、回答を求めるとともに、自由記載の欄を設けた。

【結果及び考察】34名（医師、看護師、薬剤師、栄養士、看護学生）から回答が得られた。60%が必要と回答し、他の用語についても配布の希望があった。また、サイズ（A4）については40%に大きいとの指摘があり、携帯できるサイズ（手帳など）の要望があった。難易度については90%が普通と回答し、一般の人も対象とすることからキーワードを強調することが望ましいとの意見がみられた。現在、用語の理解度の変化を比較するためにアンケート調査を行うとともに、意見をもとにサイズなどの検討を行っている。

¹⁾ 杉田他、在宅医療と内視鏡治療、**6**, 21(2002)、ホスピスケアと在宅ケア、**12**, 226(2004)

^{註1)} 緩和ケア、麻薬、胃ろう、がん、睡眠薬、グリーンフケア、セカンドオピニオン